

令和5年度 戸田市立戸田南小学校 学校経営方針

1 学校経営信条

教育は「国家百年の計」といわれるように、長期的な展望をもった国家プロジェクトである。そこで働く教師集団は、子供たちに大いなる夢を抱かせ正しき未来に導く大切な役割を担っている。夢の実現は一朝一夕になし得るものではなく、長時間にわたる地道な実践の後に確実な成果として表れるものである。ここで必要とされる力は、物事に対しての情熱を決して失うことなく、長時間、継続的に粘り強く努力する力、すなわち「やり抜く力 (GRIT)」である。

そのためにもまず教師自らが、先に生まれた者として模範となって子供たちに「やり抜く力」を示さなければならない。子供たちのために、日々研鑽に精進し、こつこつ地道な努力を確実に重ねる教育活動のもと、子供たちに「やり抜く力」を育成し、21世紀型スキル（批判的思考力・問題解決力・企画力・コミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキル）・汎用的スキル（各教科等で学んだ力を実社会の様々な場面で活用できる能力）・非認知スキル（粘り強さ・やり抜く力・協調性・自制心など）を身に付けさせていくことが、我々教育者に課せられた重要な使命である。

- ※ GRIT …① Guts（度胸）困難に挑み、逆境にたじろがない勇氣
② Resilience（復元力）挫折から立ち直る力
③ Initiative（自発性）率先して物事に取り組む力
④ Tenacity（執念）どんな状況でも集中し続ける力

2 学校教育目標

(1) 気づく 【知：確かな学力】

◆基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決するために、必要な思考力・表現力・判断力・その他の能力をはぐくむ。

(2) 助け合う 【徳：豊かな心】

◆自らを律しつつ、他者と共に協調し、他者を思いやる心や感動する心など豊かな人間性をはぐくむ。

(3) きたえる 【体：健やかな体力】

◆自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、心身を鍛え、たくましく生きるための健康や体力をはぐくむ。

3 めざす学校像

－児童と教職員がともに学び・遊び、保護者・地域が信頼を寄せる学校－

- (1) 児童が分かる喜び、できるうれしさを味わえる学校
- (2) 保護者・地域が児童の未来を託せる学校
- (3) 教職員が生きがい働きのある学校

4 めざす教師像

(1) 分かる授業、できる授業を展開する教師

- ①「教師は授業で勝負する」という気概をもって、常に意欲と向上心を持ち、児童のために誠心誠意精進すること。
- ②創意工夫した教材研究、授業研究等によるたゆまぬ研修をとおして、児童一人ひとりに分かる喜び、できるうれしさが味わえる授業を展開すること。

(2) 夢や感動を与えられる教師

- ①教育環境の最たるものは、教師その人の言動である。児童と共に学び、遊ぶ活動をとおし、先に生まれた者として教え諭し、後に生まれた者に夢や感動を与える教育活動をする。

(3) 保護者、地域から信頼される教師

- ①児童に愛情をもって接し、好ましい人間関係を醸成する中で児童一人ひとりに居場所のある学級、いじめのない学級を築くこと。
- ②保護者や地域の願いや思いを受け止め、ともに児童の育成にあたること。

(4) 教育公務員としての自覚をもつ教師

- ①戸田南小から教職員事故（わいせつ行為、飲酒運転、個人情報漏洩、金銭事故、体罰等）を絶対に起こさないこと。教育公務員として、法令、条例、通知、校内規程等を遵守すること。
- ②体罰は厳禁である。併せて暴言（乱暴な言葉・感情的な言葉・大声で怒鳴ること等）も厳禁である。指導力不足の露呈であり、教師として最も恥ずべき行為の一つである。

5 本年度の指導の重点

(1) 令和の日本型学校教育の推進（GIGA スクール構想推進を基盤とする）

GIGA スクール構想

- ・ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちが誰一人取り残されない教育を目指し、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師
- ・ 児童生徒の力を最大限に引き出す

①戸田市版SAMRモデルの推進

- ・ ICTの活用は必要不可欠であり、SAMRモデルにおけるA段階を当たり前にし、M段階を目指す。
- ・ 一番のハードルは0→S、S→Aへの変容。ごこちない使い方でも、まずチャレンジし、学校全体で変容を推進する雰囲気づくりをしていく。

SAMRモデル

- ・ S u b s t i t u t i o n (代替)
アナログでできたことをデジタルで代用
- ・ A u g m e n t a t i o n (増強)
デジタルの特性を生かして、学習効果を増大
- ・ M o d i f i c a t i o n (変革)
授業デザインが変容し、新たな学びの実践へ
- ・ R e d e f i n i t i o n (再定義)
実社会の課題解決や新たな価値の創造

①個別最適な学び

- ・ ICT機器を活用し、学習の基盤となる能力を育成するとともに、多様な児童一人一人の興味関心に応じたやりたいことを深められる学びの提供を行う。
- ・ タブレットパソコンを日常的に教育活動の中で活用することにより、子供たち自身が **ICT 機器を「文房具」**として自由な発想で活用できるよう環境を整え、授業（オンライン学習含む）をデザインする。
- ・ ICT機器の活用之际、校内オンライン（サテライト、合同授業）、家庭学習のクラウド化、プリントの排除、教育データの利活用を行う。

②協働的な学び

- ・ 児童同士の学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人や主催者としての意識を育成する。
- ・ 1人1台タブレットパソコン配備の教育環境を最大限に活用して学習指導要領を着実に実施し、**教科等および学校等の横断的な視点によるカリキュラムマネジメント**を充実させる。

③デジタル・シティズンシップ教育

子供自身が ICT のよき使い手になるよう、自分で考えて使える力を育むと同時に、よき社会の担い手になることを目指す。

GIGA : 「Global and Innovation Gateway forAll (全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉)」

(2) 学習指導

ア 戸田型 PBL の充実

- ①主体的・対話的で深い学びの授業形態の一つとして、戸田中学校、戸田第一小学校と連携した**戸田型 PBL**を充実させる。
- ②現実社会における子供たちの興味・関心等をもとに、課題解決活動、制作活動、探索活動等を通じ、**社会に価値を生み出す力**を育成する。
- ③子供たちにアウトプットを意識させ、プロや地域も巻き込んだ発表・実践の場を設定する。

※戸田型PBL（課題解決型学習）の定義

具体的な誰かの要望や自身の願望に基づき、何をしていくか（課題）を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現（解決）を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身につける社会に開かれた探求的な学び（学習）

イ 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）

子供たちに、「知識・技能」「思考力・表現力・判断力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、不断の授業改善を図る。

主体的な学びの視点 児童が自分の考えを表現することができていたか。

対話的な学びの視点 児童が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。

深い学びの視点 児童が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。

ウ 算数科の充実（少人数指導の充実）

①高学年は少人数指導体制で授業を展開する。学習集団は状況に応じて均等分、課題別、習熟度別に分ける。また、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、児童自らが自己調整しながら進めていく自由進度学習を実施する。

②4学年以上は県学力学習状況調査の結果分析を基に、一人一人の児童の実態に合わせて、つまずきや学習意欲など子どもの姿を敏感に捉えた指導と評価を行う。

エ 外国語・外国語活動の充実

①英語専科教員を主軸として、ALTを効果的に活用した授業を展開する。

②英語タイム（モジュールの時間）の創意工夫を図り、外国語・外国語活動の時間と確実にリンクした教育課程を完全実施する。

③英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする活動を推進する。

オ 読書活動の推進

①本好きサポーターと司書教諭の連携を密にし、リーディングスキル、非認知スキルの向上のため創意工夫ある読書活動を実施する。

②100冊・1万ページ読書を積極的に推進する。

(3) 生徒指導

ア 生徒指導の充実

①学習規律の徹底など、授業こそが最も大切な生徒指導の場であることを理解し、全教師で日常的に実践する。

②校内規律（立腰、なかよしことば（アイスコア）、あいさつ）をはじめ、廊下階段の右側歩行、清掃、時刻を守る等を全教師と児童が一丸となって実践するとともに、子供と積極的に係わりをもつ中で信頼関係の一層の確立に努める。

※なかよしことば（アイスコア）

ア…ありがとう イ…いいよ ス…すごいね コ…ごめんね コ…こんにちは
ア…ありがとう（再）

イ いじめの根絶

- ①「いじめは絶対に許さない」という強い決意の下、「いじめはどの学校・児童生徒にも起こっている」という認識に立ち、小さな変化を見逃さず、いじめが疑われる時点で**事実関係の確認は必要なく、いじめ事案**として迅速に対処する。
- ②いじめによる被害（生命心身財産・転校・不登校）の「疑い」が生じたら**重大事態**として取り扱う。
- ③いじめ認知より3ヶ月間は被害児童を見守り、不健全な人間関係には積極的に教師が介入し、いじめ解消に向けて指導を徹底する。
- ④被害児童及び加害児童に対し、子供の気持ちに寄り添ったカウンセリング手法を用いて、教育相談や心の通う個別指導を行う。

ウ 不登校児童の解消～誰一人取り残されない教育を目指して～

- ①パレットルームを効果的に活用し、多様な子供たちのニーズに合った居場所を提供する。
- ②子供が3日間連続して休んだら、「迅速・的確・誠実」に対応する。
- ③1ヶ月間に3日間以上欠席した児童については、準不登校児童として扱う。
- ④オンライン環境を積極的に活用し、不登校傾向の児童と学校との絆を結びつける。
- ⑤**過去、年間14日間以上（理由を問わず）の欠席**している児童について1日休んだ時点で「迅速・的確・誠実」に対応する。

※国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官 滝充
小学校で年間14日以上欠席（理由を問わず）した児童と中学校で不登校となった生徒には相関関係がある。

（4）特別支援教育の充実

インクルーシブ教育の充実

- ①発達障害のある子供も含めて、多様な教育的ニーズのある子供がいることを前提とした学級経営を行う。
- ②インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、本校に設置されている特別支援学級と通常学級との連携を図り、学びの連続性を確立させる。また、**どの子供も大切な「戸田南小学校の子供」として、共に学ぶことができる心のバリアフリー**を推進する。
- ③応用行動分析学等の科学的・専門的な知見に基づき、**スクールワイドPBS**を浸透させた学級経営を実践する。

※スクールワイドPBS…学校全体で取り組むポジティブな行動支援

（5）安全で安心できる学校

- ①不審者対応として、授業時の門扉、昇降口等は必ず閉める。保護者等の来校者には名札の着用を確実に依頼する。（厳守）
- ②**首から上のけが**については、どのような些細と思われるけがであっても、独断で大丈夫と判断することなく、**迅速に管理職に報告し、丁寧に保護者に連絡、対応する。**（厳守）

③事件事故対応の「さしすせそ」

さ … 最悪を想定し し … 慎重に す … 素早く
せ … 誠意をもち そ … 組織的に

(6) 地域の中の学校・開かれた学校

- ①**学校運営協議会**を、学校と地域をつなぐ重要なパイプとして「意図的・計画的・継続的」に活用し、地域の中でコミュニティワイドPBSを実践する。

※コミュニティワイドPBS…地域全体で取り組むポジティブな行動支援

- ②保護者や地域に学校の情報を、ホームページ、H&S、Facebook、授業公開・保護者会（オンライン含む）等により積極的に発信し、学校教育活動について正しく知ってもらい理解者や協力者を増やす。

(7) 働き方改革の推進

- ①教師自らが教育者である事への自負を抱き、児童と共に過ごす教育活動に喜びを見いだす。
- ②**安易な前年度踏襲は厳禁**とする。学校行事をゼロベースで見直し、業務のスクラップに努める。捨てる勇気も大切である。
- ③勤務時間外在校時間を月45時間以内・年間360時間（月30時間）以内を努力目標とし、自身の健康管理に努め、万全の体調をもって児童の指導にあたる。
- ④毎月21日を県のふれあいデー、毎週木曜日を本校のリフレッシュデーとし定時退勤に努める。
- ⑤職員同士、相互に尊重し合い同僚を大切にし思いやりの心をもって接する。報告・連絡・相談を常に心がけ、風通しのよい職場にする。
- ⑥できない理由を考えるのではなく、今、確実に踏み出せること、どうしたら到達地点に近づけるかを、一人ではなく「チーム南」という組織として考え、PDCAサイクルの下、実行する。